

このコーナーではK-Car Meetingに、ゆかりのある方々に登場頂き、思い出話いや、今後のK-Car業界への想いや、時には裏話などを語って頂いております。

語って頂いたメッセージジャーは、次号へとバトンをつないで頂きます。その名の通り『メッセージリレー！』

記念すべき第1回目は、K-Car Meetingの元祖「K-CARスペシャルミーティング」開催立ち上げより支援頂きましたテイクオフの米田さんよりスタートしました。

今回は、第4回目です。TT WORKSの近行さんよりバトンが届きましたNEWSの須賀さんです！

次は貴方の番かもしれません。お楽しみに！

Message Relay

第4回

今回News須賀喜一郎が担当させていただきます。

K-car Meetingの思い出ということで、

開催当時の思い出を語らせていただきます。

私が自動車業界に入ったのは、
軽自動車のドレスアップ＆チューニングをしていた
「工房nobu」に入社した18歳の時でした。
当時も今と同じく、軽自動車のカスタムは盛んでした。

その頃の軽自動車での走行イベントといえば、
名阪スポーツランドでのジムカーナが主流でした。
大会では参加台数も多く、毎回大変盛り上がっていました。
その反面、関西でのサーキット周回レースは殆どありませんでした。



平成8年、関西に待望の周回ができる本格サーキットができました。セントラルサーキットです。
このセントラルサーキットができたおかげで、関西で軽自動車だけの周回レースが開催できるようになりました。
当初は、雑誌K-CARスペシャルを冠にした、K-CARスペシャルミーティングで始まりました。



そのころ私は、カブチーノで、レーシングカーnobuチーノを制作しました。

周回でのレースカーの製作は、アルトワークスでの耐久仕様を作ったことがあるのみで、手探りでの製作でした。

今から考えると、知識も技術力も全然なく、頓珍漢なレースカーだったと思いますが、その頃の失敗や経験が、今につながっていると思います。

Nobuチーノのシェーカダウンは、ぶつけ本番でK-CARスペシャルミーティングのスーパーバトル、ドライバーはnobuの社長。天気は大雨からの曇り、裏ストレートエンドに川ができている、コースコンディションでした。装着タイヤはスリックタイヤ。

スタート！に失敗し、裏ストレートで頑張りすぎてハイサイド横転、くるりんぱと1回転・・・。1回転したことで、ボコボコでも自走でピットに戻って開口1番「全然エンジンが吹けへん！」終了でした。その時は、多くの人が同情してくれました。

私を含めて出場している皆さんも、サーキットでのクラッシュや故障を経験し、安全にレースイベントを楽しめています。また、レースイベントを通して、様々な繋がりが出来ているとも思います。

これらを長く続けていくために、これからも安全で楽しく、皆さんでK-Car Meetingを盛り上げてください。

News 須賀喜一郎